

---

# コントでGO！

歌紅夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コントでGO！

### 【Nコード】

N2533BA

### 【作者名】

歌紅夜

### 【あらすじ】

ライダーとスーパー戦隊の力を結集してコントを開催！

アイムは黒い！？

マーベラスは寂しがりや！？

などなど。いろいろあるので楽しみに！！

初コントー！アィム様は黒い人で女王様（前書き）

残酷な描写もあるかもしれませんが、ご注意ください。

初コントー！アーム様は黒い人で女王様！

いきなりで恐縮ですが、これからいろんな意味でコントが始まります。

ゴカイガレオン！いつものとおり、鎖がたれてきてガレオンに乗る。

アーム「思ったのですが…。」

ルカ「何？」

アーム「ガレオンの鎖っていくつあるのでしょうか。人を何人殺せる位の鎖があるのでしょうか。」

ルカ「ちょっと待って。今アームさ、それ聞く前に何人その鎖を使つて殺したのかな？」

床に転がっているのは…。マーベラス・ジョー・ハカセ・鎧e t c。とにかくガレオンの居住区には死体がたくさん転がっている。

アーム「いえ、目についたものでつい…。」

ルカ「これ以上被害者出すのやめようよお！」

アーム「分かりました。では最後にルカさんを…。」

ルカ「え！？無差別！？」

鎖を持ってルカの首を絞めた。

アイム「あ！み、皆さん大丈夫ですか！？」

被害者「（お前の記憶力が大丈夫か？）」

てな感じです。これからよろしくお願いします。

初コントー！アイム様は黒い人で女王様（後書き）

その後のアイム。

アイム「え？私が皆様の首を！？何がなんだか、分かりませんが、  
申し訳ございません！」

被害者「（分からないんだ）」

ゝル力は黒い人を止めるので大変ゝ（前書き）

L e t ' s コント！

「ルカは黒い人を止めるので大変」

ルカ 「ねえ、アイム本当に覚えてないの？」

アイム 「ええ。全く。」

ルカとアイムはガレオンの鎖で皆の首を絞めたことを話していた。

アイム 「できれば…まだまだ絞めたりないのもっと絞めたいのですが。」

結局覚えていた。手には血の付いた鎖。

ルカ 「本当にもうやめよう！！ね！」

アイム 「もう少し絞めたいので・・・。」

とマーベラスの首を再び絞めた。

マベ 「又オツ！やめろ、いい加減…ぶほっ！！」 血を吐いた。  
限界が近い。

アイム 「分かりました。ではこれが最期です。おやすみなさい、マーベラスさん」

再び首を絞め始めた。

ルカ 「いい加減にしようよおおー！！」



本日もルカは、アイムの殺人行為にストップをかけるが、できなかった。

「ルカは黒い人を止めるので大変」（後書き）

その後のルカ。

ルカ 「マーベラス、大丈夫？」

マベ 「俺はいいが、ジョーたちが。」

アイム 「ジョーさんも寝ていてくださいね」

ジョー 「やめろおお！」

ルカ 「これ以上やめて！！」

く剣崎の言っていることが分からない。く（前書き）

L e t · s · T ·

「剣崎の言っていることが分からない。」

死体の中に、ライダーの死体もあった。剣崎真一だ。

アイム「剣崎さんもお休みになりますか？」（黒い笑み）

剣崎「断っておく。それよりアイム、お前仲間を……。一オンドウルラギッタノカ《本当に裏切ったのか》！？」

アイム「剣崎さん、今なんとおっしゃいましたか？」

剣崎「だから、一オンドウルラギッタノカ《本当に裏切ったのか》！？」

アイムはとうとうキレた。

アイム「剣崎さん、言っている事が全く分からないので、頭を冷やしましょう。」

マーベラスの首をさっきまで首を絞めていたが、アイムはそれを止め、飛び込み様のプールで嫌な行動に入ったアイム。鎖で剣崎を縛り上げ、10?の飛び込み台からこまの様に剣崎を投げた。

剣崎「オンドウルラギラレタ！」  
本当に裏切られた

と叫びながら落ちていった。

アイム「これで邪魔者は居なくなりました。さてもう少し……。締め  
遊びましょうか。」

と、地獄のショータイム。

マベ 「オンドウル語は意味不明だ。」

そんな風を感じたマーベラスたちだった。

く剣崎の言っていることが分からない。く（後書き）

さっきの訳は、

「本当に裏切ったのか」  
と

「本当に裏切られた」  
です。

ゝハナとアイム、どちらが強いのか。ゝ（前書き）

L e t · s コント！

ハナとアイム、どちらが強いのか。」

モモタロスは死体になったハカセに聞いた。

モモ 「なあ、ハナクソ女とあのアイムっていう奴、どっちが強いんだ？」

ハカセ 「うゝん確かに。」

ハナ 「何よ？言いたいことがあるならはつきりいいなさいよ！」

と、ハカセとモモタロスの顔面を殴った。（巻き沿いです。）

アイム 「ハカセさん、彼方も頭を冷やしましょうか…？」

鎖を持ってきて2人の首を同時に絞めたアイム

2人 「やめてええええええええ！殺す気かあああああ！」

と、叫んでいる。

アイム 「ふふふ。では、お二人ともお休みになって下さいね」

最終的にハカセは血を吐き、モモタロスは砂になってしまった。

ルカ 「他人も巻き込んだ…！ハカセは良いとして。」

全員 「いいの！？」





ハナとアイム、どちらが強いのか。 (後書き)

その後の地獄姉妹

アイム「意外と…楽しいですね！」

ハナ「皆の悲鳴が気持ち良い」

全員(ドSだ…！)

ゝジョーはシド・バミツク大好き娘（大好きっこ）ゝ（前書き）

L e t · s コント！

「ジョーはシド・バミック大好き娘（大好きっこ）」

ジョーは自室で落ち込んでいた。

マベ 「ジョー、何かあったのか？」

ジョー 「シド先輩……。シド先輩……。」

マベ 「ジョー？」

ジョー 「シドセンパイアアイ!!」

マベ 「人の話を聞けっ！」

マーベラスはゴーカイサーベルをジョーに刺した。

ジョー 「……マーベラスか。」

マベ 「人の話は聞けっつの！」

何故こんな状態になったのか。彼から事情を聞いてみよう。

ジョー 「だってさ、俺38話でバリゾーグ<sup>シド先輩</sup>倒しただろ？その日からシド先輩の夢ばかり……。」

マベ 「それ、単なるBLじゃねえか？」

ジョー 「B、BLじゃない。」

マベ 「いま、顔が赤かったが。」

ジョー「み、見間違いだ。」

くまとめく

ジョーはシド・バミックが好きすぎてしょうがない。

「ジョーはシド・バミツク大好き娘（大好きっこ）」（後書き）

その後のジョー。

ジョー「シドセンパイアアイ！」

マベ「いい加減にしろ。」

「マーベラスはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

Let's go!

「マーベラスはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

あの日以来、ジョーは

ジョー「シドセンパイアイ！」

と、叫ぶようになった。そしてそれを受けて、マーベラスは落ち込むようになった。

マベ「仲間にしちゃ駄目だったかな…。」

するとアイムがお茶を持ってきた。黒いわけではなく、普通のアイムである。

ルカ「何落ち込んでんのよ！ジョーは単なるBLでしょ？」

マベ「でも、でもおお！」

もはや自滅。するとアイムが、

アイム「ジョーさんを…締めましょうか？」

と、もはや黒アイムと化している。

ルカ「ついでよ。マーベラスも締めて。」

アイム「分かりました。」

と、鎧のゴーカイスピアを投げた。



鎧 「お、俺のゴーかイスピアアアア！」

ジョー 「シドセンパアアイ！」

マベ 「ジョーのバカアアア！」

マーベラスはしばらく立ち直れなかった。

「マーベラスはBLさんと居るだけで、悲しい気持ちになっているようです。」

その後のマーベラス。

ジョー「マーベラス、どうかしたのか？」

アイム「ジョーさん、あなたのせいですよ。」

ジョー「やめろ、やめてくれえええ！」

くアイムとルカの妄想く（前書き）

L e t · s コント！

## くアイムとルカの妄想く

アイムはルカと話をしていた。どういふ話かというところ…。

ナビィ「何かねマーベラス、気絶している間にアカレッドに会ったみたいなんだよネ」

と言うのを聞いた後である。

アイム「もしも、マーベラスさんが寂しがりやさんなら、アカレッドさんに会ったとき、どんな反応をしていたのでしょうか？」

ルカ「じゃあ、想像してみようか。」

アイムとルカは、38話の「夢を掴む力」のアカレッドにあったシーンを想像してみた。

マベ「アカレッドオオオ！」（抱きついている）

アカレ「やめろおおお！気持ち悪いいいい！」

ルカ「意外と…泣きじゃくついても想像できるんだけど。」

アイム「ですね。」

マベ「お前ら…何の話をしているんだ？」

ルカ「え？マーベラスが寂しがりやだったらという想像だけど？」

マベ 「ふざけんな！」

アイム「こちらは真剣にやっているので。しばらく黙っててください。お休みなさい、マーベラスさん」

この妄想は、まだまだ続く。

くジョーと鑑の妄想。く（前書き）

L e t · s · T · !

## 「ジョーと鎧の妄想。」

ジョー「なあ、鎧。」

鎧「何ですか、ジョーさん。」

傷の手当てをしながらジョーと鎧は話をしていた。

ジョー「お前が最初に出たときの妄想、マーベラス限定で実現したらどうだ？」

と、言うことでジョーと鎧は想像してみた。

マベ「やあ、大いなる力をくださいな！」

ジョーと鎧は吐き気がしてきた。

鎧「こんな想像、するんじゃないかった。」

ジョー「想像じゃないだろ。お前の場合、確実に妄想だろ。」

そしてそれを聞きつけたアイムは…。

アイム「ジョーさん、鎧さん…。少し黙りましょうか。」

銀・青「いやあああああ！」

まとめ、アイムがいるときにマーベラスの話題は出さないほうがいい。

ゝジョーと鎧の妄想。ゝ（後書き）

少々キャラ崩壊がありますが、大丈夫でしょうか。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2533ba/>

---

コントでGO！

2012年1月8日18時50分発行